

「伝統」、「文化」も時代と共に変化する。昭和43年の医学部入学であった。まさに男の世界で、女子学生は約1割弱であった。医学、医療にも流れがあり、女性の進出が目立つ。確かに、女性医師に適した診療科は存在する。敬遠されるのが外科系である。

外科領域のものの考え方も大きく変化した。過去の外科は、大きく切開しての、徹底した手術が基本であった。私の経験である。徹夜で、那覇市の救急診療所の当番をこなした後、朝の8時30分、大学病院の手術の助手の業務について。それから、延々と11時間に及ぶ手術であった。

このような領域は、確かに女性には向かない。しかし、時代の流れで、外科医のものの考え方に大きな変化がみられた。患者さんは、「痛みのない、傷が目立たない手術」を願っている。それに応える形で内視鏡下の手術が普及した。過去の大工さんの力仕事から、医療光学機器を駆使した繊細な外科の登場である。

診断技術も進歩し、小さな病変が見つかるようになった。麻酔が発達した。自動縫合器も発達した。すべてが、患者さんの期待に応える形で。呼吸器外科では、肋骨を切離しての30センチの傷が約5センチ以下に縮小した。

時に、土俵上での女性看護師による救急蘇生が話題になった。相撲界の徒弟制度と伝統は、基本ではあるが、時代の流れには追い付いてはいない。

何気なく、女房に意見を求めた。即刻、答が返ってきた。「100キロを超す、大男たちを産んだのは誰なの・・・」。すみません。尊敬すべきは、女性でした。

ティーンタイム

尊敬すべきは女性 石川 清司



「伝統」、「文化」も時代と共に変化する。1968年の医学部入学であった。まさに男の世界で、女子学生は約1割であった。医学、医療にも流れがあり、女性の進出が目立つ。確かに、女性医師に適した診療科は存在する。敬愛されるのが外科系である。

外科領域のものの考え方も大きく変化した。過去の外科は、大きく切開して、徹底した手術が基本であった。私の経験である。卒業後、救急診療所の当番をこなした後、朝の8時30分、大学病院の手術助手の業務についた。それから、延々と1時間に及ぶ手術であった。

このような領域は、確かに女性には向かない。しかし、時代の流れで、外科医のものの考え方に大きな変化がみられた。患者は「痛みのない、傷が目立たない手術」を願っている。それに応える形で内視鏡下の手術が普及した。過去の大工さんの刀仕事から、医療光学機器を駆使した繊細な外科の登場である。

診断技術も進歩し、小さな病変が見つかるようになった。麻酔が発達した。自動縫合器も発達した。すべてが、患者さんの期待に応える形で。呼吸器外科では、肋骨を切り離しての30分の術が約5分以下に縮小した。

時に、士徳士での看護師による救急蘇生が問題になった。相撲界の徒弟制度と伝統は、基本にはあるが、時代の流れには追いついてはいない。何気なく、女房に意見を求めた。即刻、答が返ってきた。「100%を認す、大男たちを産んだのは誰なの...」。すみません。尊敬すべきは、女性でした。

(名護市、老人保健施設長 69歳)